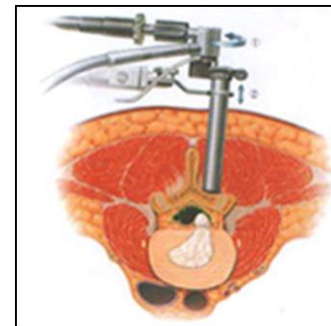
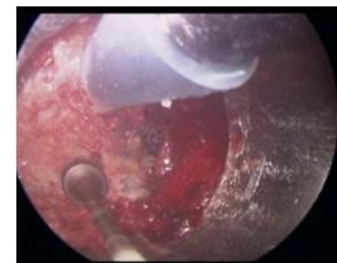


MED法の普及、高難度術式のため手術支援システムの必要性高まる

- 傷口わずか16mm、患者は術後数時間で歩行、約5日で退院できる
- 医師は、正確な解剖知識や、手技の習得が必要
 - 術前: 治療対象部位を立体的に把握、入念な模擬手術など準備必要
 - 術中: 内視鏡映像の視野が狭いため、方向を見失いやすい
- 術野の頭脳で行う模擬手術など他人に伝えにくいことを、術前・術中に参照、共有、ナビゲートするシステムが必要とされている



脊椎内視鏡下手術



内視鏡映像

熟練医の術前計画に基づく術中誘導・指示による支援システム目指す

- 術式に基づく切削シミュレーションの実現
 - 内視鏡映像の表示や、術具による視野の遮蔽などを仮想的に表現し、厳密なシミュレーションを支援
- 手術シミュレーション結果に基づいた、術中ナビゲーションの実現
 - シミュレーション結果を基に、術野、内視鏡位置を誘導

パナソニック メディカル: 高度な3D画像処理技術を活かした事業展開

PACSをはじめとする高度なIT医療サービスの開発により培ったDICOMや画像処理の技術と大学の持つ技術、医療現場のニーズを基にシミュレーション・ナビゲーションシステムを開発中。まず他社装置へのライセンス供給を行い、将来的には自社装置の開発によりアジア圏への展開を目指す。



内視鏡映像

ナビ画面